(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2018-29868
(P2018-29868A)
(43)公開日　平成30年3月1日(2018.3.1)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A61F 13/535	(2006.01)	A61F	13/535	200	3B200
A61F 13/534	(2006.01)	A61F	13/534	100	
A61F 13/511	(2006.01)	A61F	13/511	100	
A61F 13/512	(2006.01)	A61F	13/512		

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 12 頁）

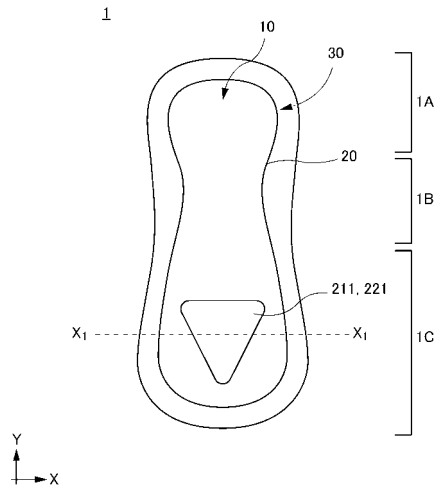
(21)出願番号　特願2016-165552 (P2016-165552)
(22)出願日　平成28年8月26日 (2016.8.26)

(71)出願人　000183462
日本製紙クレシア株式会社
東京都千代田区神田駿河台４－６
(74)代理人　100144048
弁理士　坂本　智弘
(74)代理人　100204755
弁理士　渡辺　浩司
(74)代理人　100186679
弁理士　矢田　歩
(74)代理人　100189186
弁理士　大石　敏弘
(74)代理人　100196645
弁理士　宮本　陽子

最終頁に続く

(54)【発明の名称】吸収性物品

(57)【要約】
【課題】便を収容可能な凹部を有する吸収性物品であって、肌触りの良好な吸収性物品を提供することを目的とする。
【解決手段】本発明は、液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、トップシート及びバックシートの間に配置された吸収体と、を有する吸収性物品であって、吸収性物品は、前部、股部、及び後部を有し、トップシートが、３Ｄエンボスパターンが付与された不織布から構成され、吸収体は、上層吸収体と、下層吸収体とから構成され、上層吸収体には吸収性物品の後部に配される部位に開口部が設けられるとともに、下層吸収体の前記開口部が宛がわれる部位には、吸収体の厚みが減少した凹部が設けられている、吸収性物品に関する。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、トップシート及びバックシートの間に配置された吸収体と、を有する吸収性物品であって、
前記吸収性物品は、前部、股部、及び後部を有し、
トップシートが、３Ｄエンボスパターンが付与された不織布から構成され、
前記吸収体は、上層吸収体と、下層吸収体とから構成され、
上層吸収体には吸収性物品の後部に配される部位に開口部が設けられるとともに、下層吸収体の前記開口部が宛がわれる部位には、吸収体の厚みが減少した凹部が設けられている、吸収性物品。
【請求項２】
前記開口部の長手方向の寸法及び幅方向の寸法が、前記凹部の長手方向の寸法及び幅方向の寸法よりも小さく、
トップシートの前記開口部が宛がわれる位置に開口が設けられている、請求項１に記載の吸収性物品。
【請求項３】
前記開口部の長手方向の寸法及び幅方向の寸法が、前記凹部の長手方向の寸法及び幅方向の寸法よりも大きく、
前記開口部の境界及び／又は前記凹部の境界に、トップシートから吸収体に至るチャネルエンボスが形成されている、請求項１に記載の吸収性物品。
【請求項４】
前記トップシートが立体ギャザー上に配置されている、請求項１から３のいずれかに記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、肌触りの良好な吸収性物品に関する。
【背景技術】
【０００２】
一般的に吸収性物品には、テープ止めタイプ紙おむつ、軽失禁パッド、尿取りパッド、パンツタイプ紙おむつ等が知られており、これらの吸収性物品は着用対象者の排泄における介護の必要度に応じて適宜選択されて使用される。これらの吸収性物品は、液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、両シートの間に配置された吸収体と、で構成されている。このような構成を採用することにより、尿等の体液は、吸収性物品のトップシートを透過して吸収体に吸収され、バックシートにより外部へ漏れないようになっている。
【０００３】
吸収性物品のうち、比較的少量の体液を吸収することを想定したものとしては、軽失禁パッドが知られている。この軽失禁パッドは、介護の必要性がそれほど高くなく、比較的活動的な着用者にも着用される傾向にあるが、これらの着用者が軽失禁パッドを着用した際に、尿だけではなく、少量の便をも排泄してしまうおそれがあることが指摘されている。このため、体液の吸収量が比較的低い軽失禁パッドの設計においても、便漏れへの対応が求められることがあった。
【０００４】
便漏れへも対処可能な吸収性物品としては、例えば、特許文献１には、互いに直行する縦軸と横軸とを有し、縦軸方向に前部と後部とを備え、縦軸に関して左右対称をなすように形成された便収容部が形成された吸収性物品が開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】

【０００５】
【特許文献１】特開２００１－００８９５７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
しかしながら、特許文献１に記載の吸収性物品のような、吸収体に凹部を形成した吸収性物品においては、凹部の吸収体が圧縮されていることが多いため、この凹部の吸収体が肌に接触した場合には、吸収性物品の肌触りが悪化することがあった。したがって、本発明は、以上の課題に鑑みてなされたものであり、便を収容可能な凹部を有する吸収性物品であって、肌触りの良好な吸収性物品を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明の発明者らは、上記課題に鑑み、鋭意研究を行った。その結果、上層吸収体と、下層吸収体とから構成された吸収体を有し、上層吸収体に開口部を、下層吸収体に凹部を設け、３Ｄエンボスパターンを有するトップシートを有する吸収性物品によれば、上記課題を解決できることを見出し、本発明を完成するに至った。具体的には、本発明は、以下のものを提供する。
【０００８】
（１）本発明の第１の態様は、液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、トップシート及びバックシートの間に配置された吸収体と、を有する吸収性物品であって、前記吸収性物品は、前部、股部、及び後部を有し、トップシートが、３Ｄエンボスパターンが付与された不織布から構成され、前記吸収体は、上層吸収体と、下層吸収体とから構成され、上層吸収体には吸収性物品の後部に配される部位に開口部が設けられるとともに、下層吸収体の前記開口部が宛がわれる部位には、吸収体の厚みが減少した凹部が設けられている、吸収性物品である。
【０００９】
（２）本発明の第２の態様は、（１）に記載の吸収性物品であって、前記開口部の長手方向の寸法及び幅方向の寸法が、前記凹部の長手方向の寸法及び幅方向の寸法よりも小さく、トップシートの前記開口部が宛がわれる位置に開口が設けられていることを特徴とするものである。
【００１０】
（３）本発明の第３の態様は、（１）に記載の吸収性物品であって、前記開口部の長手方向の寸法及び幅方向の寸法が、前記凹部の長手方向の寸法及び幅方向の寸法よりも大きく、前記開口部の境界及び／又は前記凹部の境界に、トップシートから吸収体に至るチャネルエンボスが形成されていることを特徴とするものである。
【００１１】
（４）本発明の第４の態様は、（１）から（３）のいずれかに記載の吸収性物品であって、トップシートが立体ギャザーの上に配置されていることを特徴とするものである。
【発明の効果】
【００１２】
本発明の吸収性物品は、吸収体を、上層吸収体と、下層吸収体とからなるものとし、下層吸収体には、凹部を形成するものの、上層吸収体には開口部を形成する。これにより、肌側に配される上層吸収体の肌触りが悪化せず、吸収性物品の肌触りが悪化することを防止できる。さらに、本発明においては、吸収体を覆うトップシートに３Ｄエンボスパターンを付与したので、吸収性物品の肌触りが良好となるとともに、３Ｄエンボスパターンを有するトップシートが有する良好な伸縮性により、吸収体への凹部の形成により、トップシートに張力がかかっても、トップシートが破れにくいものとなる。
【図面の簡単な説明】
【００１３】
【図１】本発明の吸収性物品の平面図である。

【図２】（ａ）第１の実施態様の、図１における、Ｘ$_1$－Ｘ$_1$断面図であり、（ｂ）第２の実施態様の、図１における、Ｘ$_1$－Ｘ$_1$断面図である。
【図３】トップシートの拡大図を示す図面である。
【図４】３Ｄエンボスパターンの様子を示す図面である。
【発明を実施するための形態】
【００１４】
＜＜第１の実施態様＞＞
以下、図面を参照して、本発明の第１の実施形態に係る吸収性物品１について詳細に説明する。なお、本実施形態の説明においては、全体を通して同じ要素には同じ符号を付している。本明細書における以下の説明において、体液とは、尿、血液、軟便中の水分等の体内から体外に排出される液体をいう。さらに、吸収性物品１の着用時とは、吸収性物品１の装着時及び装着後の少なくとも一方を示す。なお、本明細書の説明において、吸収性物品１の長手方向とは、吸収性物品１が着用されたときに着用者の前後に亘る方向であり、図中、符号Ｙで示す方向である。また、吸収性物品１の幅方向とは、長手方向に対して横又は直交する方向であり、図中、符号Ｘで示す方向である。さらに、本明細書において、吸収性物品１の身体接触側表面とは、吸収性物品１の着用時に着用者の肌に当接する表面を指し、衣類接触側表面とは、吸収性物品１の着用時に着用者の衣類に当接する表面を指す。本明細書においては、吸収性物品１の身体接触側表面側を上側と称し、衣類接触側表面側を下側と称することがある。
【００１５】
＜吸収性物品＞
図１は、本発明の吸収性物品１の平面図である。本発明の吸収性物品１は、液透過性のトップシート１０と、液不透過性のバックシート３０と、トップシート１０及びバックシート３０の間に配置された吸収体２０と、を有する。本発明の吸収性物品１は、前部１Ａと、股部１Ｂと、後部１Ｃとに区分される。
【００１６】
［トップシート］
図３は、トップシート１０の拡大図を示す図面である。トップシート１０は、吸収体２０に向けて体液を速やかに通過させるものであり、吸収体２０を挟んで、バックシート３０と対向して配置されている。トップシート１０は、少なくとも肌と当接するシートとなることから、柔らかな感触で、皮膚に刺激を与えないような基材、例えば、エアスルー不織布を代表とするサーマルボンド不織布等の不織布、サーマルボンド／スパンボンドを積層した複合不織布、開口ポリエチレンフィルム等の開口性フィルム、ポリエチレンフォーム、ウレタンフォーム等の発泡フィルム、又はこれらを積層した複合シートといった材料から形成される。トップシート１０は、単層であっても、複数層積層されていてもよく、ドライタッチ性を付与するために多数の透孔が形成されていてもよい。
【００１７】
不織布としては、ポリエチレンやポリプロピレン等の合成繊維やレーヨン等の再生繊維、綿等の天然繊維を用いて、サーマルボンド法のほか、スパンレース法やスパンボンド法等の公知の加工法によって得られたものも用いることができる。加工性及び強度の点から、トップシート１０の坪量は、１８ｇ／ｍ^{2}以上６０ｇ／ｍ^{2}以下であることが好ましい。トップシート１０には、肌への刺激を低減させるために、ローション、酸化防止剤、抗炎症成分、ｐＨ調整剤、抗菌剤、保湿剤等を適用してもよい。トップシート１０の形状は、特に限定されるものではなく、例えば、略矩形状や略砂時計形状の形状を有していることが好ましい。トップシート１０は、吸収体２０の側縁よりも若干外方に延在して設けられていてもよい。
【００１８】
（３Ｄエンボスパターン）
本発明においては、トップシート１０は、３次元の凹部及び凸部を有する３Ｄエンボスパターンを有する。ここで、３Ｄエンボスパターンとは、例えば、特表２００２－５１２

６６０号公報に開示されるものであり、多数の凸体を有する凸ローラと、凸体と相補的な多数の凹体を有する凹ローラとで、凸体と凹体がかみ合うように不織布を挟み込み、必要に応じて熱を付与することにより形成されるものである。本発明の吸収性物品１に用いられるトップシート１０は、このような３Ｄエンボスパターンを有していることにより、肌触りが良好なものとなっている。トップシート１０の厚みは、好ましくは、０．３ｍｍ以上１．０ｍｍ以下となり、より好ましくは、０．５ｍｍ以上１．０ｍｍ以下となっている。

【００１９】

トップシート１０が有する３Ｄエンボスパターンのパターン形状は、円形若しくは楕円形；三角形、四角形、五角形、六角形、七角形、八角形等の正多角形若しくは多角形；長手方向若しくは幅方向に延びる、互いに平行な直線、又は；互いに並行する曲線であることが好ましく、多角形の場合は、縦方向の寸法が横方向の寸法よりも長くてもよく、横方向の寸法が縦方向の寸法よりも長くてもよい。より好ましい態様において、本発明の吸収性物品１におけるトップシート１０が有する３Ｄエンボスパターンは、図４に示すように、六角形又は正六角形の凹部と、六角形又は正六角形の凸部とが連続して構成されるハニカムパターンであることが好ましい。

【００２０】

トップシート１０が有する３Ｄエンボスパターンの凹部の面積率は、５％以上９０％以下であることが好ましく、１５％以上８０％以下であることがより好ましい。面積率を上記の範囲内のものとすることにより、３Ｄエンボスパターンの３次元形状が十分に維持され、トップシート１０の肌触りが良好なものとなる。

【００２１】

本発明においては、後述する上層吸収体２１が開口部を有しているが、トップシート１０のうち、この開口部２１１が宛がわれる位置には、開口１１が設けられていることが好ましい。トップシート１０が上層吸収体２１の開口部２１１を有する位置に開口１１を有していることにより、吸収性物品１上に排泄された便が、トップシート１０上の開口１１を介して、下層吸収体２２の凹部２２１に誘導され、下層吸収体２２の凹部２２１にて、排泄された便を確実に保持することができる。トップシート１０上に形成される開口１１の寸法は、上層吸収体２１に形成される開口部２１１の寸法よりも小さければよいが、例えば、長手方向で１ｍｍ以上１００ｍｍ以下であることが好ましく、幅方向で１ｍｍ以上１００ｍｍ以下であることが好ましい。この開口１１は長手方向に対して平行な直線でもよいし、曲線状のスリットでもよい。

【００２２】

なお、トップシート１０は、立体ギャザーの上側に配置されていてもよい。

【００２３】

［バックシート］

バックシート３０は、吸収性物品１の外部に体液が漏れないよう、液不透過性を有し、遮水性を有するシート材が用いられるが、ムレ防止のために透湿性を有していてもよい。このような特性を有するバックシート３０の材料としては、例えば、ポリエチレンシートやポリエチレンラミネート不織布等の厚みの薄いプラスチックシートを挙げることができる。バックシート３０の形状は、特に限定されるものではないが、例えば、略矩形状や略砂時計形状の形状を有していることが好ましい。バックシート３０は、吸収体２０の側縁より若干外方に延在して設けられていてもよい。バックシート３０の衣類接触側表面には、着用時に下着等に吸収性物品１を固着するための粘着剤層が設けられていてもよい。吸収性物品１が粘着剤層を有する場合、粘着剤層を保護するための剥離シートを有していてもよく、この剥離シートは、吸収性物品１の包装シートと一体となっていてもよい。トップシート１０及びバックシート３０は、長手方向端部等、端部の少なくとも一部において、吸収体２０を挟まずに、ホットメルト接着剤やヒートシール等により固着されるフラップを形成していてもよい。

【００２４】

［吸収体］
図２（ａ）は、本実施態様の、図１における、Ｘ$_1$－Ｘ$_1$断面図である。吸収体２０は、基材としての吸収性繊維と、高吸水性ポリマー（以下、ＳＡＰとも称する）と、を含有する。吸収性繊維は、一般に生理用ナプキン、おむつ、尿取りパッド等の吸収性物品に使用されるものであれば特に制限はなく、例えば、フラッフパルプ、コットン、レーヨン、アセテート、ティシュ、吸収紙、親水性不織布等を挙げることができる。これらの中でも、吸収性の観点から、フラッフパルプを使用することが好ましい。斯かるフラッフパルプとしては、木材パルプ、非木材パルプ等を綿状に解繊したものを挙げることができる。
【００２５】
吸収体２０の高吸水性ポリマーとしては、体液を吸収し、かつ、逆流を防止できるものであれば特に制限はなく、ポリアクリル酸ナトリウム系、ポリアスパラギン酸塩系、（デンプン－アクリル酸）グラフト共重合体、（アクリル酸－ビニルアルコール）共重合体、（イソブチレン－無水マレイン酸）共重合体及びそのケン化物等の材料から形成されたものを使用することができる。これらの中でも、重量当たりの吸収量の観点から、ポリアクリル酸ナトリウム系が好ましい。
【００２６】
吸収体２０において、吸収性繊維及びＳＡＰの形態は、吸収性繊維中にＳＡＰ粒子を混合して形成した積層マットの形態であることが好ましい。また、ＳＡＰ粒子の漏洩防止や吸収体２０の形状の安定化の目的から、吸収体２０をキャリアシートに包むことが好ましい。キャリアシートの基材としては親水性を有するものであればよく、ティシュ、吸収紙、エアレイド不織布等の親水性不織布を挙げることができる。キャリアシートを複数備える場合は、キャリアシートの基材は同一のものであっても異なるものであってもよい。また、キャリアシートは、疎水性不織布であっても、表面を親水化処理されているものであればよい。
【００２７】
本発明において用いられる吸収体２０は、上層吸収体２１と下層吸収体２２とを積層してなるものである。ここで、上層吸収体２１と下層吸収体２２の長手方向及び幅方向の寸法は、上層吸収体２１の寸法が下層吸収体２２の寸法より大きくてもよく、上層吸収体２１の寸法が下層吸収体２２の寸法と同じであってもよく、上層吸収体２１の寸法が下層吸収体２２の寸法より小さくてもよい。
【００２８】
（凹部及び開口部）
本発明の吸収性物品１においては、上層吸収体２１のうち、吸収性物品１の後部１Ｃに配される部位に開口部２１１が設けられるとともに、上層吸収体２１の開口部２１１が宛がわれる下層吸収体２２の部位には、吸収体２０の厚みが減少した凹部２２１に設けられている。このような構成を採用することにより、吸収性物品１の後部１Ｃに配される吸収体２０の部位に、排泄された便の収容部を形成することが可能であるため、便を効果的に保持可能な吸収性物品１を提供することができる。
【００２９】
本実施態様の吸収性物品１においては、上層吸収体２１に形成される開口部２１１の長手方向及び幅方向の寸法は、下層吸収体２２に形成される凹部２２１の長手方向及び幅方向の寸法よりも小さくなっていることが好ましい。このような構成を採用することにより、肌触りが低下しがちな下層吸収体２２の凹部２２１の大部分が、上層吸収体２１により覆われるため、吸収体２０に便の収容部を形成しつつも、吸収性物品１の肌触りが低下することを効果的に防止することができる。
【００３０】
上層吸収体２１に形成される開口部２１１の寸法は、長手方向が１０ｍｍ以上５０ｍｍ以下であることが好ましく、幅方向が１０ｍｍ以上１００ｍｍ以下であることがより好ましい。また、下層吸収体２２に形成される凹部２２１の寸法は、長手方向が１０ｍｍ以上７５ｍｍ以下であることが好ましく、幅方向が１０ｍｍ以上１５０ｍｍ以下であることが

より好ましい。
【００３１】
［立体ギャザー］
本発明において、吸収性物品１の身体接触側表面の幅方向両端部には、少なくとも一対の立体ギャザーが設けられていていることが好ましい。この立体ギャザーは、トップシート１０とともに体液の閉じ込め空間を形成し、体液の横漏れを防止できるようになっている。立体ギャザーは、立体ギャザーシートと、立体ギャザーシートの自由端部に沿って配された伸縮性弾性部材と、を備えていることが好ましい。伸縮性弾性部材としては、天然ゴム、合成ゴム、及びポリウレタン等からなる、糸状、紐状、平型形状のものを適宜使用することができる。
【００３２】
＜吸収性物品の製造方法＞
吸収性物品１の製造方法としては、特に限定はなく、従来公知の方法を採用することができる。例えば、立体ギャザーをあらかじめトップシート１０上に配置し、このトップシート１０とバックシート３０との間に吸収体２０を挟持する。この際、吸収体２０は、上層吸収体２１と下層吸収体２２とからなるものとするとともに、上層吸収体２１には開口部２１１を、下層吸収体２２には凹部２２１を形成しておく。そして、トップシート１０とバックシート３０とを一部又は全周に亘ってホットメルト接着剤やヒートエンボス、超音波エンボス、高周波エンボス等を用いて固定し、必要に応じて、トップシート１０から上層吸収体２１にかけてチャネルエンボスを形成してもよい。これを包装シートに個別包装した後、必要に応じて長手方向に折り畳めばよい。
【００３３】
＜＜第２の実施態様＞＞
以下、図面を参照して、本発明の第２の実施態様に係る吸収性物品１について詳細に説明する。なお、以下の説明において、第１の実施態様と重複する構成については、その説明を省略することがある。
【００３４】
＜吸収性物品＞
本発明の吸収性物品１は、液透過性のトップシート１０と、液不透過性のバックシート３０と、トップシート１０及びバックシート３０の間に配置された吸収体２０と、を有する。本発明の吸収性物品１は、前部１Ａと、股部１Ｂと、後部１Ｃとに区分される。
【００３５】
［トップシート］
図３は、トップシート１０の拡大図を示す図面である。トップシート１０は、吸収体２０に向けて体液を速やかに通過させるものであり、吸収体２０を挟んで、バックシート３０と対向して配置されている。トップシート１０は、少なくとも肌と当接するシートとなることから、柔らかな感触で、皮膚に刺激を与えないような基材、例えば、エアスルー不織布を代表とするサーマルボンド不織布等の不織布、サーマルボンド／スパンボンドを積層した複合不織布、開口ポリエチレンフィルム等の開口性フィルム、ポリエチレンフォーム、ウレタンフォーム等の発泡フィルム、又はこれらを積層した複合シートといった材料から形成される。トップシート１０は、単層であっても、複数層積層されていてもよく、ドライタッチ性を付与するために多数の透孔が形成されていてもよい。
【００３６】
不織布としては、ポリエチレンやポリプロピレン等の合成繊維やレーヨン等の再生繊維、綿等の天然繊維を用いて、サーマルボンド法のほか、スパンレース法やスパンボンド法等の公知の加工法によって得られたものも用いることができる。加工性及び強度の点から、トップシート１０の坪量は、１８ｇ／ｍ^{2}以上６０ｇ／ｍ^{2}以下であることが好ましい。トップシート１０には、肌への刺激を低減させるために、ローション、酸化防止剤、抗炎症成分、ｐＨ調整剤、抗菌剤、保湿剤等を適用してもよい。トップシート１０の形状は、特に限定されるものではなく、例えば、略矩形状や略砂時計形状の形状を有しているこ

とが好ましい。トップシート１０は、吸収体２０の側縁よりも若干外方に延在して設けられていてもよい。

【００３７】

（３Ｄエンボスパターン）

本発明においては、トップシート１０は、３次元の凹部及び凸部を有する３Ｄエンボスパターンを有する。ここで、３Ｄエンボスパターンとは、例えば、特表２００２－５１２６６０号公報に開示されるものであり、多数の凸体を有する凸ローラと、凸体と相補的な多数の凹体を有する凹ローラとで、凸体と凹体がかみ合うように不織布を挟み込み、必要に応じて熱を付与することにより形成されるものである。本発明の吸収性物品１に用いられるトップシート１０は、このような３Ｄエンボスパターンを有していることにより、肌触りが良好なものとなっている。トップシート１０の厚みは、好ましくは、０．３ｍｍ以上１．０ｍｍ以下となり、より好ましくは、０．５ｍｍ以上１．０ｍｍ以下となっている。

【００３８】

トップシート１０が有する３Ｄエンボスパターンのパターン形状は、円形若しくは楕円形；三角形、四角形、五角形、六角形、七角形、八角形等の正多角形若しくは多角形；長手方向若しくは幅方向に延びる、互いに平行な直線、又は；互いに並行する曲線であることが好ましく、多角形の場合は、縦方向の寸法が横方向の寸法よりも長くてもよく、横方向の寸法が縦方向の寸法よりも長くてもよい。より好ましい態様において、本発明の吸収性物品１におけるトップシート１０が有する３Ｄエンボスパターンは、図４に示すように、六角形又は正六角形の凹部と、六角形又は正六角形の凸部とが連続して構成されるハニカムパターンであることが好ましい。

【００３９】

トップシート１０が有する３Ｄエンボスパターンの凹部の面積率は、５％以上９０％以下であることが好ましく、１５％以上８０％以下であることがより好ましい。面積率を上記の範囲内のものとすることにより、３Ｄエンボスパターンの３次元形状が十分に維持され、トップシート１０の肌触りが良好なものとなる。

【００４０】

なお、トップシート１０は、立体ギャザーの上側に配置されていてもよい。

【００４１】

［吸収体］

図２（ｂ）は、第２の実施態様の、図１における、X_1－X_1断面図である。吸収体２０は、基材としての吸収性繊維と、高吸水性ポリマー（以下、ＳＡＰとも称する）と、を含有する。吸収性繊維は、一般に生理用ナプキン、おむつ、尿取りパッド等の吸収性物品に使用されるものであれば特に制限はなく、例えば、フラッフパルプ、コットン、レーヨン、アセテート、ティシュ、吸収紙、親水性不織布等を挙げることができる。これらの中でも、吸収性の観点から、フラッフパルプを使用することが好ましい。斯かるフラッフパルプとしては、木材パルプ、非木材パルプ等を綿状に解繊したものを挙げることができる。

【００４２】

吸収体２０の高吸水性ポリマーとしては、体液を吸収し、かつ、逆流を防止できるものであれば特に制限はなく、ポリアクリル酸ナトリウム系、ポリアスパラギン酸塩系、（デンプン－アクリル酸）グラフト共重合体、（アクリル酸－ビニルアルコール）共重合体、（イソブチレン－無水マレイン酸）共重合体及びそのケン化物等の材料から形成されたものを使用することができる。これらの中でも、重量当たりの吸収量の観点から、ポリアクリル酸ナトリウム系が好ましい。

【００４３】

吸収体２０において、吸収性繊維及びＳＡＰの形態は、吸収性繊維中にＳＡＰ粒子を混合して形成した積層マットの形態であることが好ましい。また、ＳＡＰ粒子の漏洩防止や吸収体２０の形状の安定化の目的から、吸収体２０をキャリアシートに包むことが好まし

い。キャリアシートの基材としては親水性を有するものであればよく、ティシュ、吸収紙、エアレイド不織布等の親水性不織布を挙げることができる。キャリアシートを複数備える場合は、キャリアシートの基材は同一のものであっても異なるものであってもよい。また、キャリアシートは、疎水性不織布であっても、表面を親水化処理されているものであればよい。

【００４４】

本発明において用いられる吸収体２０は、上層吸収体２１と下層吸収体２２とを積層してなるものである。ここで、上層吸収体２１と下層吸収体２２の長手方向及び幅方向の寸法は、上層吸収体２１の寸法が下層吸収体２２の寸法より大きくてもよく、上層吸収体２１の寸法が下層吸収体２２の寸法と同じであってもよく、上層吸収体２１の寸法が下層吸収体２２の寸法より小さくてもよい。

【００４５】

（凹部及び開口部）

本発明の吸収性物品１においては、上層吸収体２１のうち、吸収性物品１の後部１Ｃに配される部位に開口部２１１が設けられるとともに、上層吸収体２１の開口部２１１が宛がわれる下層吸収体２２の部位には、吸収体２０の厚みが減少した凹部２２１に設けられている。このような構成を採用することにより、吸収性物品１の後部１Ｃに配される吸収体２０の部位に、排泄された便の収容部を形成することが可能であるため、便を効果的に保持可能な吸収性物品１を提供することができる。

【００４６】

本実施態様の吸収性物品１においては、上層吸収体２１に形成される開口部２１１の長手方向及び幅方向の寸法は、下層吸収体２２に形成される凹部２２１の長手方向及び幅方向の寸法よりも大きくなっていることが好ましい。このような構成を採用することにより、吸収体２０における便の収容部が、上方に開き、かつ底部の狭まった構造となり、上層吸収体２１の開口部２１１の周辺に排泄された便であっても、適切に、下層吸収体２２の凹部２２１にまで誘導して収容することができる。

【００４７】

上層吸収体２１に形成される開口部２１１の寸法は、長手方向が１０ｍｍ以上１００ｍｍ以下であることが好ましく、幅方向が１０ｍｍ以上５０ｍｍ以下であることがより好ましい。また、下層吸収体２２に形成される凹部２２１の寸法は、長手方向が１０ｍｍ以上７５ｍｍ以下であることが好ましく、幅方向が１０ｍｍ以上１５０ｍｍ以下であることがより好ましい。

【００４８】

［チャネルエンボス］

本実施形態の吸収性物品１においては、上層吸収体２１の開口部２１１の境界及び／又は下層吸収体２２の凹部２２１の境界に、トップシート１０から上層吸収体２１又は下層吸収体２２に至るチャネルエンボス２３が形成されていてもよい。チャネルエンボス２３の深さは、１ｍｍ以上５ｍｍ以下であることが好ましい。チャネルエンボス２３は、開口部２１１及び／又は凹部２２１の全周に形成されていてもよく、開口部２１１及び／又は凹部２２１の周縁の一部のみに形成されていてもよい。チャネルエンボス２３が形成されていることにより、トップシート１０が吸収体２０における便の収容部の形状に沿ったものとなり、吸収体２０の便の収容部に便を誘導しやすくなる。

【００４９】

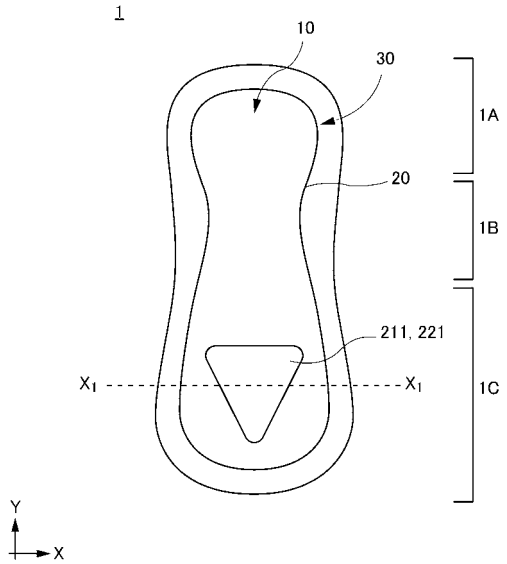
以上、本発明を、実施形態を用いて説明したが、本発明の技術的範囲は上記の実施形態に記載の発明の範囲には限定されないことは言うまでもなく、上記実施形態に、多様な変更又は改良を加えることが可能であることが当業者に明らかである。また、そのような変更又は改良を加えた形態も本発明の技術的範囲に含まれ得ることが、特許請求の範囲の記載から明らかである。

【符号の説明】

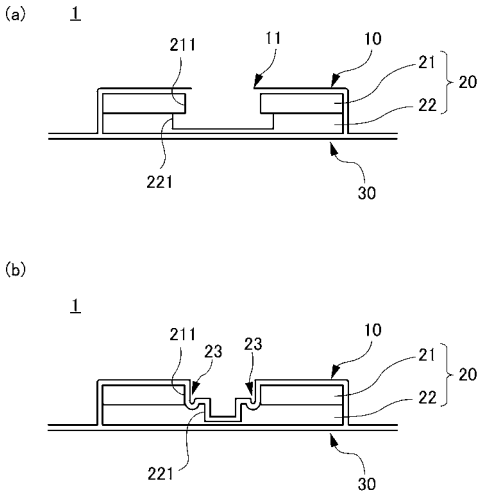
【００５０】

１　　吸収性物品
１Ａ　　前部
１Ｂ　　股部
１Ｃ　　後部
１０　　トップシート
１１　　開口
２０　　吸収体
２１　　上層吸収体
２１１　開口部
２２　　下層吸収体
２２１　凹部
２３　　チャネルエンボス
３０　　バックシート

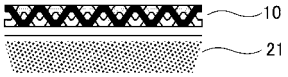
【図１】



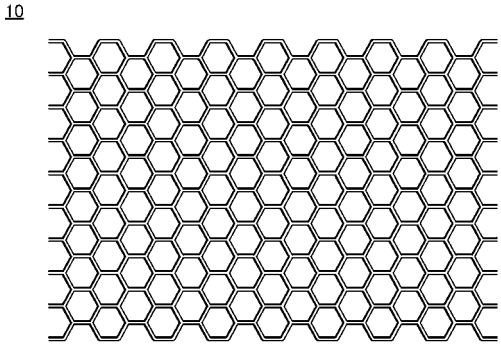
【図２】



【図３】



【図４】



フロントページの続き

(72)発明者　安藤　拓郎
東京都千代田区神田駿河台４－６　日本製紙クレシア株式会社内

Ｆターム(参考) 3B200 AA01 CA11 DA02 DB05 DB12 DB23 DB27 DC05 DC06